

どう伝える？ エネルギーや 環境の大切さ

国が国として成り立つ要素はいろいろありますが、なかでも食糧とエネルギーは最も重要なものの双壁といえるでしょう。このうち食糧はたとえ専門知識がなくても何とか作ることができます。戦中・戦後の食糧難の時代は皆そうしていました。では、エネルギーは——。ここで一つ「松根油」の話をご紹介します。

松根油(しょうこんゆ)は、文字通り伐採して何年か経った松の根を原料とする、根を掘り出すにも精製にも非常に手間と労力を要する燃料です。日本に石油や石炭がほとんど入ってこなくなった第2次世界大戦末期、航空燃料としての利用が試みられ、「200本の松の根で航空機が1時間飛ぶ」と軍は国民を挙げて松の根を掘り、供出するよう大号令をかけました。終戦の日まで兵隊さんたちが松の根を掘っていたことを私も記憶しています。1945年には25万バレルが生産されたという米国の記録があるそうですが、それで航空機が飛んだとの記録は残念ながらまったくありません。エネルギーを作ることがいかに大変なことであるかを物語る歴史的事実だと思われませんか。

その後、長ずるに及んでエネルギー産業に身を投じた私は、人間の生活に不可欠でありながらたやすく作ることができないエネルギーの大切さ、地球環境問題とも密接に関連しているエネルギー問題の重要性について深く考えるようになりました。これは日本に限らず世界全体で共有すべき認識ですが、エネルギーは目に見えないだけに理解するのは容易ではありません。

では、どうやってこれを理解してもらうか。その有効な方策の一つとして考えられるのが、「子どもへのエネルギー環境教育」です。“子どもの時から正しい知識を持つことが、エネルギーや地球環境問題への理解を深める”との認識のもと、関西電力や関係会社でもエネ



藤 洋作 氏

Yohsaku Fuji
関西電力相談役

ギー環境教育に関するさまざまな取り組みを行っています。私が所長を務める原子力安全システム研究所(INSS)が小中学校の先生向けに学習教材を開発、時には無償配布を行っているのもその一例です。

そんな折、昨年より地球環境・エネルギー委員長を仰せつかり、委員会でも従来の提言活動や環境事例集の作成に加え、エネルギー環境教育への支援活動を始めました。一人の先生が正しい知識を教えれば、それは一度に何十人の子どもに伝わる。ということは一人でも多くの先生にエネルギー環境教育について勉強していただくのが実質的かつ早道。ならば教育委員会と協力しようということで、INSSなども連携し、まずは教員向け研修会での教材提供や講師派遣を行っています。これまで堺市、神戸市、大阪市などと協力の輪を広げてきましたが、今後も関西全域への浸透をめざして活動を続ける所存です。

子どもたちが喜んで学ぶようなエネルギー環境教育を行えば、子どもを通してその内容が各家庭へ伝わり、家庭の省エネやCO₂の排出量削減につながります。また、子どもたちが成長すれば、エネルギーや環境について正しい知識を持った大人が増えることになります。子どもへのエネルギー環境教育は迂遠なように見えて、実は問題解決の核心を突く取り組みなのです。しかし、教育は息長く取り組まなければその成果は見えてきません。すでに多くの企業がエネルギー環境教育に取り組んでおられますが、さらなるご協力をぜひお願いしたいと思います。

談